

CLA
Award
2015

最 優 秀 賞

設計部門



まちなか交流拠点：警固公園実施設計

株式会社アーバンデザインコンサルタント

大杉哲哉・堤八恵子・棚町修一・小峯裕

カツノ風景デザイン室 勝野靖弘

あい環境設計研究所 扇輝久

設計監修 福岡大学工学部教授 柴田久

設計協力 福岡大学工学部 景観まちづくり研究室

警固公園は、福岡市天神地区の中心にあり、百貨店や専門店、ホテルや映画館を備えた複合商業施設に囲まれた位置にある。公園に隣接し福岡市と県南地区を結ぶ私鉄福岡天神大牟田線の「福岡天神駅」と市営地下鉄「天神駅」があり、天神地区を訪れる人の玄関口となっている。南側は警固神社と隣接し、都心

の貴重なオープンスペースとして市民に親しまれている。反面、改修前の警固公園は、施設の老朽化とともに築山や壁泉、トイレや地下駐車場出入口等の死角が多く、犯罪や迷惑行為の抑制が課題となっていた。再整備計画の立案にあたって「安心で安全な空間づくり」「施設・設備等の老朽化への対応」「公園の機能劣化に対する見直し」の3つの課題を設定した。特に周辺の土地利用の変化にともない、壁泉や水景施設を中心にしたイベント・休憩の空間から都心の憩いの空間や移動空間、また周辺施設の外構・アクセス空間としての見直しが必要であった。

設計にあたり、『天神の中庭』をテーマに新たな都心の公園機能の創出するため、3つの視点を設定した。

作品概要

作品名—— まちなか交流拠点;警固公園実施設計
 所在地—— 福岡市中央区天神2丁目地内
 発注—— 福岡市住宅都市局みどりのまち推進部みどり整備課
 設計—— 株式会社アーバンデザインコンサルタント
 設計協力—— 福岡大学工学部景観まちづくり研究室
 カッノ風景デザイン室
 あい環境設計研究所
 監理—— 福岡市住宅都市局みどりのまち推進部みどり整備課
 施工—— 西鉄グリーン土木・九州グラウンド建設工事共同企業体
 設計期間—— 2011年6月～2012年1月
 施工期間—— 2012年2月～2012年12月
 規模—— 近隣公園 面積A=11,400㎡
 主要施設—— 中央広場、子ども広場、フラワーテラス、園路、地下駐車場
 出入口(外壁改修)、トイレ等

作品評

この作品は、福岡市の業務・商業の中心拠点である天神駅に隣接する約1.1haの公園の全面改修である。当該公園は昭和26年に開園しているが、平成元年に全面改修しており、時代の変遷とともに姿を変えてきた。今回の改修では、多くの既存施設や既存木を残しつつ、また、現況の円形花壇部分の形状を活かしたデザインの展開など、土地の記憶が良く継承されている。

一方、開放的で明るい空間づくりとしたことで防犯性が拡大し、駅や周辺施設との一体感が増したことでイベント開催や集散機能が飛躍的に増大している。求められる時代のニーズに対しリニューアルにより応えた好例である。

地元大学とのコラボレーションにより利用者ニーズを把握し、具体のデザイン展開の検討を進めたことも良好な結果を生み出す大きな原動力になったと考えられる。本作品は、丁寧な仕事ぶりとその成果ならびに解りやすいプレゼンテーションが高く評価され、最優秀賞となった。



①都心の広場としての公園の役割の見直し

周辺施設との一体的な活用や、景観づくり等について役割の見直しを行い、中央に広場を設け周辺にベンチや植栽・花壇を配置し全体を見通せるオープンな空間とするとともに、隣接する警固神社や複合商業施設へのアプローチ空間として公園内に人が溜まれる小広場を設けている。

②周辺からの人の流れを交差、交流させる場所に改変する

憩いの場としての滞留機能に加え、駅や施設を利用する人々が交差・交流する場所として改変する。(駅前広場の機能) そのため、歩道を含めて公園の4辺とともに主要動線として対角線上に明確な園路を新設し、中央に広場を設けた。

③これまで親しまれてきた土地の記憶を継承する

開園以来、天神の変遷とともに公園も姿を変えながら人々に親しまれてきたため、土地の記憶を可能な限り残し、活用している。特に、円形に配置された花壇とベンチは公園利用者に親しまれてきた土地の記憶として残している。

改修後、2年余り経過した警固公園は、天神地区の貴重なオープンスペースとして、多様なイベント空間として多くの人に利用されている。また、隣接する複合商業施設が、公園の再整備後に改修され公園が望めるカフェ等をオープンした。公園の整備においては、公園利用への配慮とともに周辺地区への波及効果が大きな要素であることから、中小規模の公園の再整備により交流拠点を点在させることは、まちなかの歩行者の回遊性を高めるうえで、主要な拠点になり得ることが確認できた。